

山口県大島防災センターだより

山口県大島防災センター 〒742-2301 山口県大島郡周防大島町大字久賀5066-5 Tel.0820-79-1133

第32号
平成27年3月



東日本大震災から、四年が経過しました。
災害に備えて日頃の防災対策を今一度確認してください。

家族で防災会議

事前に家族一人一人に起こりうる状況を考えて話し合い、家族内でルールを作っておきましょう。

☆地震が日中に発生した場合、家族が離ればなれの状態になる事が考えられます。

想定される事態

- 子供は学校、遊び先
- 大人は職場など
- 連絡をとることが困難になる
- 帰宅途中で被災して帰宅困難になる



離ればなれになった時にまず、連絡をとる事が重要になります。しかし、携帯電話など通信がマヒして連絡が取れない事態が想定されます。

また、携帯電話をもたない子供や老人の事も考えなくてはなりません。

もし子供達が大人がまわりにいない場所で遊んでいた時に被災したらどうしますか？
もしもの時を考えて家族内でルールを決めておきましょう。

☆対策は一つではなく、第二・第三候補とあらゆる状況に対応できるよう心がけましょう。

話し合うテーマ

- 連絡手段は？ どこに？ どの様に？ どこに帰るの？



状 況	決めておくこと
家族が離ればなれの時	連絡方法。合流場所(避難場所)と合流方法
家族が一緒の時	避難場所と道順。役割の分担(家族の安否確認、非常持出品の準備、避難経路の確保、近所の救助活動)
共通のテーマ	乳幼児、高齢者、病人、妊婦、ペットのいる家庭での避難について

災害時のペットの預け先を見つけておく

遠方に預かってくれる方を事前に見つけておく事をおすすめします。

避難所生活はペットにとって良い環境とは言えません。ペットを飼っている親類や親友などと、被害のなかった方がペットを預かるというように、お互いに助け合う形で約束しておくと思えます。また、預け先の人に迷惑をかけないよう、日頃のしつけをしっかりと、健康管理の仕方など飼育メモの準備もしておきましょう。

連絡について

連絡方法や連絡先などについて話し合しましょう。



考えられる手段	課 題
災害用伝言ダイヤル171	使用法をおぼえておく。 電話が使えない、無い場合の代替案。
災害用伝言板	使用法をおぼえておく。 携帯が使えない、無い場合の代替案。
電話・携帯電話による連絡	どこ（誰）に連絡するか。 電話が使えない、無い場合の代替案。
伝言・書置き	伝言をどこに、何に残すか。
	※布テープに油性ペンで伝言を書き込んで、 ドアに貼り付けるなど

合流先、避難場所について

家を合流場所にした場合、倒壊や火事の延焼の危険などで、避難場所へ避難するときの対処も考えておく。

避難場所を決める

人が多く広い避難場所では、家族が合流する方法を決める。
(細かな合流ポイントを決めておくなど)

避難場所への道順の確認

火事や道がふさがれている事を想定して何通りか考えておく。

避難場所の第二候補を決める

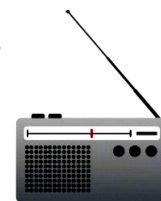
第一候補の避難場所へ何らかの理由で行けない時のため。

災害時の情報入手方法

ラジオや防災無線など、正確な災害情報を入手できる手段を用意しておく。

非常持出品

日頃からの備えが必要。避難する時、持ち出す最小限の必需品を整理して、分かりやすい場所に置いてあるかどうか。賞味期限は大丈夫か確認しておく。



津波からの避難について

気象庁から津波予報が出るのは、現在の所、早くても地震後5分程度の時間がかかります。地震の大きいゆれを感じたら、海岸に近いところに居る人は、とりあえず安全な高台に避難することが大切です。その後、津波の情報を確認して、さらに避難を続けるか、元に戻れるかを判断してください。

津波予報を聞いてから避難するのではなく、「長い時間、大きなゆれの地震があったら、まず高台に避難」(地震だ 津波だ すぐ避難)の心構えが必要です。

来館者紹介

1月、2月 見学団体

宇部市親民会
橘地区安下庄婦人会
福山市津之郷学区まちづくり推進委員会
久賀小学校5年生

の方々が来館されました。

出前講座
東和地区馬ヶ原福祉会

